

MC体制における「知の消費者」から 「知の生産者」への転換

—「指導救命士標準テキスト」発刊にむけて—

救急業務に携わる職員の教育のあり方に関する作業部会
救急救命士の教育のあり方検討班

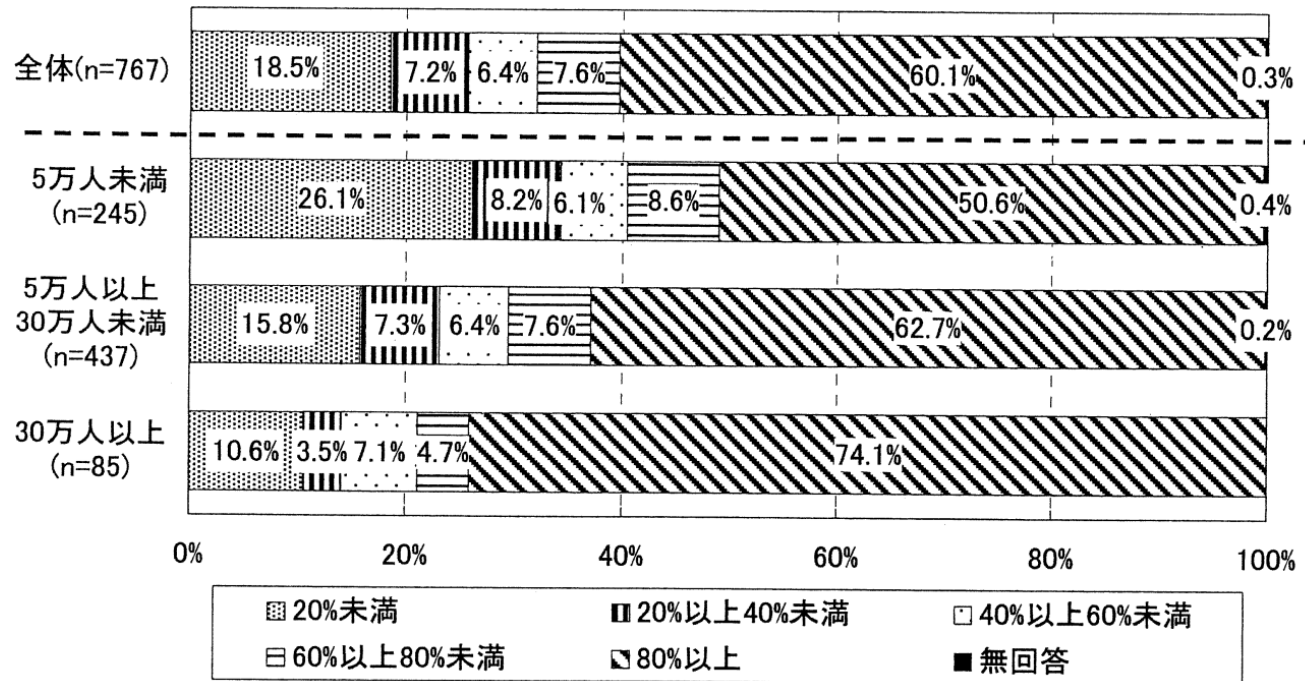
山口 芳裕

平成27年12月4日(札幌市)

「指導救命士」の誕生

救急救命士の教育的背景

- 救急救命士の増加に伴い、**再教育に係る人的・財政的負担も増加**している。
- 2年間128時間の再教育の達成が半数を下回る消防本部が**全体の3割**を占める。



救急救命士の教育的背景

- 現場経験豊富な救急救命士が 指導的立場を担うことは、全国で一定の質が担保された教育を実施するのに効果的である。
- **救急救命士が他の救急救命士を指導する体制**の構築が急務である。
- すでに 116消防本部において、指導的立場の救命士の運用が開始されている。

消防庁における検討体制（平成24年度・25年度）

救急業務のあり方に関する検討会

会 長
山本 保博
(東京臨海病院病院長)

救急業務に携わる職員の
教育のあり方に関する作業部会

作業部会長
横田順一郎
(市立堺病院副院長)

検討班設置

救急救命士班



班長：山口 芳裕
(杏林大学医学部教授)

救急隊員班



班長：浅利 靖
(北里大学医学部教授)

通信指令員班



班長：坂本 哲也
(帝京大学医学部教授)

名称・要件

(1) 名称

「指導救命士」(EMT-Supervisor)

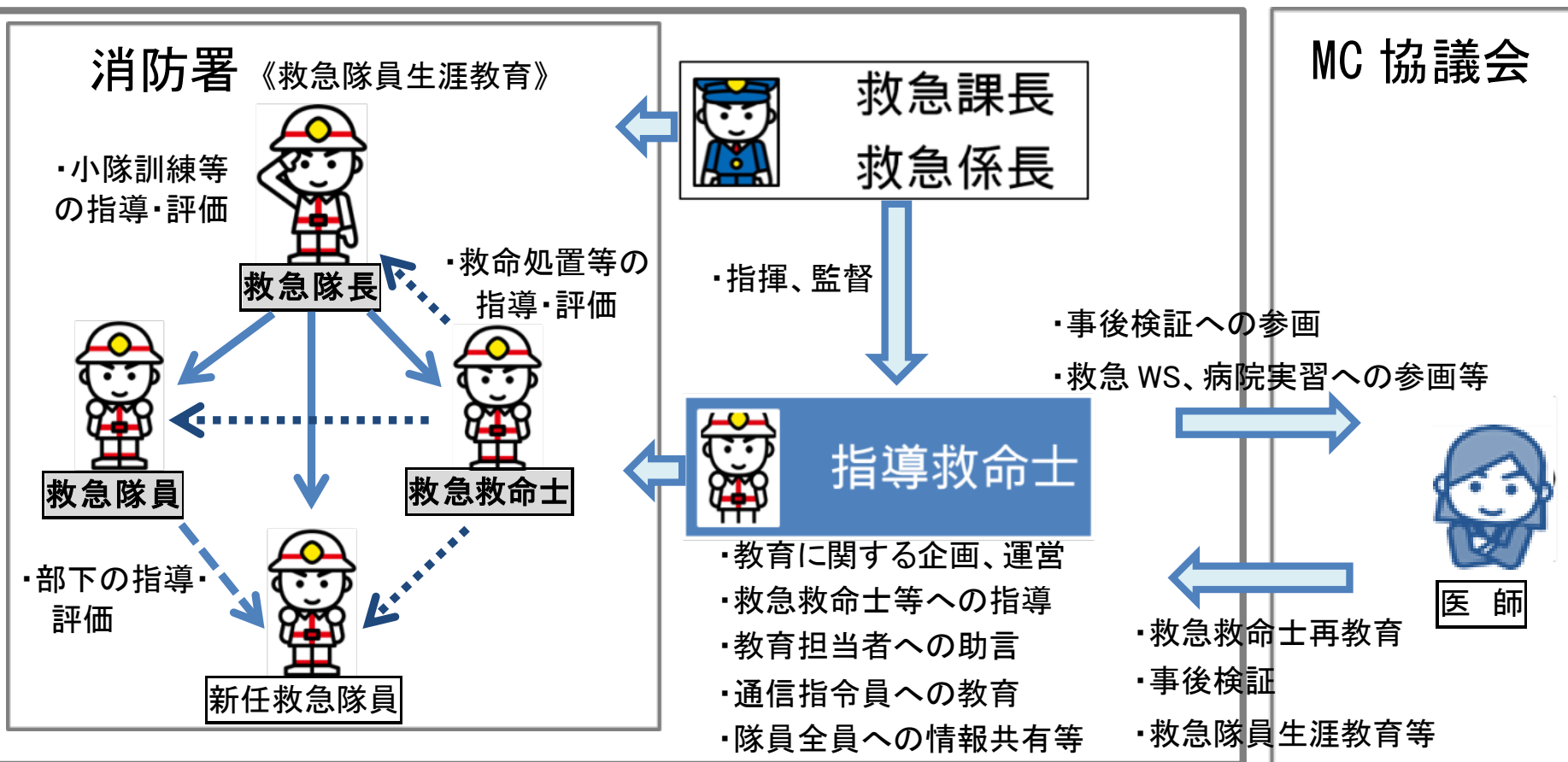
救急現場で活動する救急救命士22,800名
資格取得後5年超は 15,000名
資格取得後10年超は 8,000名

(2) 要件

1. 救急救命士として、通算5年以上の実務経験を有する者。
2. 救急隊長として、通算5年以上の実務経験を有する者。
3. 特定行為について、一定の施行経験を有する者。
4. 医療機関において、一定期間の病院実習を受けている者。
5. 消防署内の現任教育、講習会等での教育指導、学会での発表など、教育指導や研究発表について豊富な経験を有する者。
6. 必要な養成研修を受けている者。もしくは一定の指導経験を有する者。
7. 所属する消防本部の消防長が推薦し、都道府県MC協議会が認める者。

『救急業務に携わる職員の生涯教育の指針』 Ver.1

「指導救命士を柱とした教育指導体制を構築する」



MCとのかかわり

(1) 認定

都道府県MC協議会の認定

(2) 指導救急救命士に求められる資質(像)

地域のメディカルコントロールを担う医師や関係機関との連携能力

(3) 主な役割

メディカルコントロールを担う医師との連携のもと、救急業務全般を教育指導すること

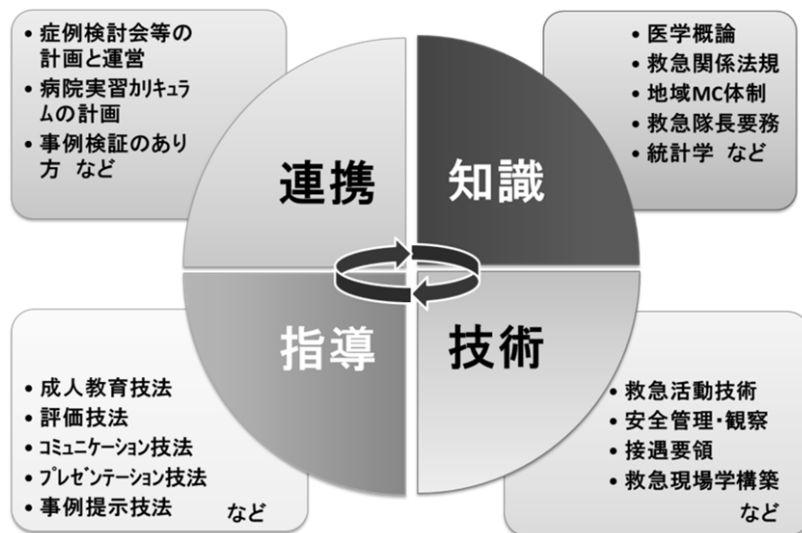
(4) その他の役割

MC協議会への参画
研修会の企画・運営
病院実習計画の策定

事後検証委員会の参画
MC圏内での講師・指導
院内研修の補助

養成カリキュラム

(1) 必要な4つのスキル

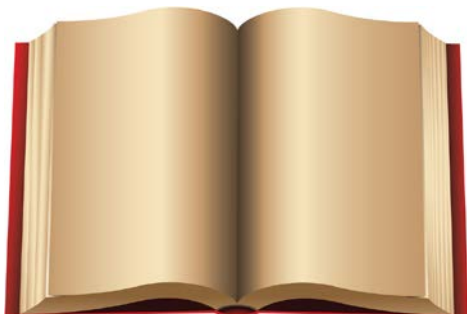


(2) ミニマムリクワイアメント

100時限

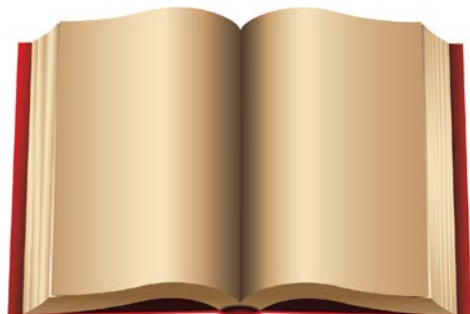
* カリキュラムおよび教育時間を追加することや追加の講習やOJTによる教育等を実施することを妨げるものではない。

	研修項目	到達内容	時間
知識	救急隊員のための医学概論	医学を学ぶ必要性や姿勢について、幅広い知識を身につけるとともに、必要な医学知識を役割（救護士、救急隊員、指令員等）に応じて区分できる	3
	救急業務と関係法規	救急業務に関する関係法令、通知などについて、幅広い知識を身につける	2
	消防組織とMC	消防組織と地域MC協議会の役割について理解し、指導することができる	2
	救急隊長要務	救急活動中のアクシデントにいかに対応するか、法令や活動基準に基づく活動要領について、関係者（傷病者、病院、組織、報道等）対応や対応方法を身につける	2
	救急業務と統計学	救急活動の統計から得られるデータ等の解析方法を習得し、施策に反映することができる	2
	「知識」効果の確認等	効果測定・追加講習	4
技術	救急活動技術	救急現場活動に必要な技術と指導方法を身につける	2
	基本手技の確認	救急隊員の基本手技技術を向上させるために必要な指導方法を身につける	3
	安全管理・観察・処置	救急現場活動に必要な安全管理、観察、処置技術に関する評価方法を身につける	6
	接遇要領	救急業務に必要な接遇要領の実践方法を身につける	2
	救急現場学の構築	救急隊員として救急現場等で培った技術（現場学）を、医師の担保のもとに学術的なカリキュラムとしてまとめることができる	9
	「技術」効果の確認等	効果測定・追加講習	7
指導	成人教育法	救急隊員に対し、専門的技術、知識のスキルアップを促し支援する方法を習得し、指導することができる	6
	評価技法	シナリオトレーニング等を通じ、展示、説明、評価方法を習得し、指導することができる	3
	コミュニケーション技法	指導業務に必要なコミュニケーションについて習得し、指導することができる	2
	プレゼンテーション技法	自分の考えや研究の成果等を理解しやすいように示す方法を取得し、指導することができる	3
	事例提示技法	正しいことへの評価と改善を目的とした評価について、指導することができる	3
	「指導」効果の確認等	効果測定・追加講習	7
連携	症例検討会の計画と運営	医師を講師とした検討会の計画から開催に至るまでの手順を身につける	2
	病院実習カリキュラムの計画	病院実習対象者の技量や経験を把握し、最も適した病院実習カリキュラムを作成し、消防組織と受入れ医療機関における調整方法等を身につける	2
	実践技能コースの計画と連携	医師による医学的な監修を受けられる環境のもとに検討会を計画する方法を身につける	5
	集中講義の計画と連携	救急隊員の個々の活動実績に照らし合わせて、不足や自己研鑽が必要な項目を、医師と連携して指導する方法を身につける	5
	救急活動事例検証のあり方	救急活動におけるPOCAサイクルを用いた事後検証の必要性を身につけ、事後検証結果をチームとして、または資格や任務に応じて伝達、指導することができる	5
	「連携」効果の確認等	効果測定・追加講習	6
総合	総合シミュレーション	総合的なシミュレーションを通じ、円滑な指導業務の遂行に役立てることができる	7
計		合計（時限）	100



「テキストは救急救命士が執筆する」

- | | |
|-------|----------------|
| 上野卓慈 | (久留米広域消防本部) |
| 梅田智之 | (北九州市消防局) |
| 奥羽場美幸 | (江津邑智消防組合消防本部) |
| 川村英和 | (綾部市消防本部) |
| 高橋 浩 | (久留米広域消防本部) |
| 高橋幸靖 | (岐阜市消防本部) |
| 鳥越昭宏 | (消防大学校) |
| 菩提寺浩 | (札幌市消防局) |
| 宮野 収 | (東京消防庁) |
| 矢島 務 | (東京消防庁) |
| 山口 誠 | (千葉市消防局) |
| 山崎裕介 | (救急救命九州研修所) |



郡山一明（救急救命九州研修所教授）

田邊晴山（救急救命東京研修所教授）



黒田泰弘（日本救急医学会）

溝端康光（日本臨床救急医学会）

プロフェッショナルリズム

プロフェッショナリズム

複雑な知識体系や熟練した技能の上に成り立つ職業で、
その実務が自分以外の他者への奉仕に用いられる天職
(Cuess)



① 自律性

援助に頼らず主体的に
取り組む姿勢。
自ら考え決断する姿勢

② 利他性

内容にこだわりを持ち、
期待以上の成果や品質
のものを提供しようする
姿勢

③ 専門性

社会的に認知された
高度の専門技術や
知識を有すること

④ 倫理性

文章で規定されている
いないにかかわらず、
守るべきことは守るという
意思決定や行動

限られた領域（専門性）に
高度な知識・技術・技能を
有する人

最適化と変革・創造を
担う人

プロフェッショナル = スペシャリスト + リーダー

最適化：現状の環境の下で最大の効果をあげること
（現行における最適な運用）

変革・創造：現在の仕事を中・長期的な視点で改善する
新しい価値を付加していく
（例えば、処置拡大）

救急救命士が「プロフェッショナル」になるとは・・・ 病院前救護の変革・創造を担う存在になるということ

大学や研修所で習得した
基礎知識



経験や学習で獲得した
新たな知見・やり方

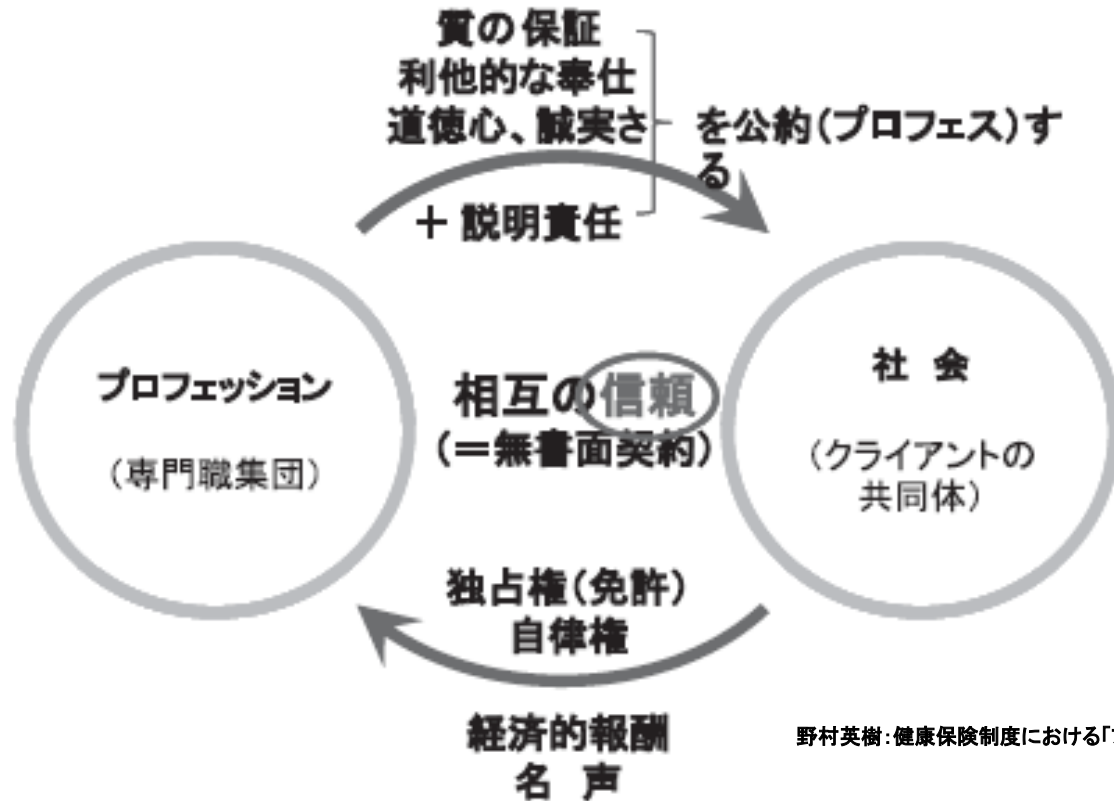


現場活動の実践の中から生まれる
新たな一行を書き加える作業



「知の消費者」から「知の生産者」への転換

プロフェッションと社会の契約



野村英樹:健康保険制度における「プロフェッションの自律」

プロフェッションは公益増進
に対して全力で貢献する意思
を公約 (profess) する

社会はプロフェッションに
自律性と自己規制の特権を
与える

- ・ 地域住民への貢献
- ・ MCの充実・強化への貢献

- ・ MC協議会による認定

MCのトポロジー再考

MCのシステムアーキテクチャー

MC機能の急速な拡大

階層型組織（権威的・排他的）



全体最適化で対応せざるを得なくなる



**最適化はトレードオフを伴う：複雑性、不確実性の切り捨て
責任と権威との不整合
俊敏性の欠落**



階層型組織からエッジ型組織への変革の必要性

情報化時代の新たな戦略的指揮統制理論

PTE (Power to the Edge) *

権限をエッジ（末端）に委譲すること

エッジの主体に強いパワーを持たせること

独自の権限を持った組織の割合を増やすこと

- ①組織が保有する情報や資産の動員能力の向上
- ②組織の俊敏性の増加

組織やシステムのパワーを増大させることができる

ま と め

『指導救命士』は、単に救急救命士の再教育を達成させるための方策ではありません。

病院前救護における救急救命士のプロフェッショナリズムを確立するための重要な一歩であると同時に、MC体制の新たな世紀への扉を開くものでもあります。

走り始めた『指導救命士』に対し、MCに係るすべての関係者のご理解とご支援を心よりお願いします。